

【能美市】 校務DX計画

1. FAX・押印の見直し

文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト（学校向け）」に基づく、「業務にFAXを使用している学校の割合」「保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類がある学校」とある通り、学校と市教委のやり取りにおいてもFAXは一切なくなった一方、まだまだ押印を必要とする書類は多い。市教委から発信する内容には押印を求めない文書を進める一方、データによる提出を模索している。OSのアップデートにより、新たに文書の承認機能がついたことで、各担当からの文書が管理職の確認をデータにより実施できるよう研鑽を積み、新たな「承認」の形を進めていく。

2. 校務支援システム・保護者連絡アプリの運用

本市では、公立小中学校が同一の校務支援システムを利用しており、名簿の統一化、出席簿、健康管理、成績管理の面で一元化が図られている。この点については、いわゆる「校務用PC」における運用のものであり、セキュリティ面では職員室で作業する校務の側面を持つ。

また、朝の児童生徒の出欠席確認に関しても、市内の小中が統一された保護者連絡アプリを運用しており、出欠席確認のみならず、各種お便りの配布にも活用が進んでいる。各学校での運用方法も多少異なる部分もあり、より効果的な運用について情報交換を進めつつ、教職員の情報セキュリティへの意識も進めながら、校務支援システムや保護者連絡アプリの運用も推進していく。

3. 学校DXの積極的な推進

学校現場では、クラウドツールの活用やペーパーレス化が徐々に図られている。市教委との連絡は個人メール（個人アカウント）を運用し、メールのみならず、チャットについても校務において積極的な活用を進めている。学校内、学校外を問わず活用が行われる、個人アカウントについては「2段階認証」を基盤としたセキュリティ対策を行い、安全を担保する中でいかに様々な情報を活用するかが求められる。2段階認証による意識改革はもちろんのこと、児童生徒の情報活用能力の向上のみならず、教職員についても様々な情報を取り扱う危機意識を醸成し、更に学校DX（学びのDX、校務のDX）を推進していく。